



冬木立	木敷風	千鳥 ^{十三}	水鳥	浮標 ^古	古卷 ^考
鶺鴒	鶺鴒 ^{十五}	ぬく鳥 ^鳥	鶺鴒 ^鳥	鶺鴒	鶺鴒
鶺鴒子	冬蠅 ^{十六}				
十一月	霜月	靛 ^{見世}	冬玉	酉 ^の 市 ^{十七}	子糸
子灯心	吹草糸	柿 ^柿	大阿海	鉗 ^打 六	松野
松芦 ^{十九}	松芒	松尾花	松蓮	松卷耳	松菊
松蒿	松芝 ^廿	霜 ^霜	冬 ^冬	冬 ^冬	冬 ^冬
冬回	冬日	短日 ^{廿二}	冬 ^冬	冬 ^冬	冬 ^冬
冬山	冬 ^冬	月 ^月	鐘 ^鐘	冰	冰 ^柱
香車	香 ^香	綱 ^綱	香	栗	冬 ^冬
					冬 ^冬

冬目一

冬 ^冬	埋火	火桶 ^{廿五}	火 ^火	鉗	巨爐	子爐
温衣	暖婆 ^共	圍 ^圍	爐 ^爐	櫛	炭	布圍 ^{廿七}
衾	臥中	絁子	紙衣	足袋	靴	靴 ^{廿八}
胼	曆 ^曆	扱 ^扱	引 ^引	綱 ^綱	代 ^代	吉 ^吉
杜夫 ^杜	輻	生 ^生	海 ^海	龍 ^龍	絛 ^絛	繻 ^繻
乾 ^乾	鞋 ^鞋					
十二月	臘八	奉 ^奉	納 ^納	仏 ^仏	名 ^名	納 ^納
玉子 ^玉	酒 ^酒	菜 ^菜	冷 ^冷	世 ^世	寒 ^寒	入 ^入
寔念 ^寔	仏 ^仏	寔 ^寔	垢 ^垢	離 ^離	寔 ^寔	聲 ^聲
餅 ^餅	搗 ^搗	餅 ^餅	花 ^花	餅 ^餅	配 ^配	堂 ^堂
						年 ^年
						忘 ^忘
						古 ^古
						曆 ^曆

岩、あたる、ひげ、さし、の、枝、の、心、三備
山、伝、の、の、ま、ら、な、け、の、ま、ま、遊、未、常
が、罪、口、切

那、山、ま、も、泥、纏、の、つ、ひ、に、登、の、丸、
口、切、も、折、あ、け、い、り、赤、桂、省、吾
口、切、も、回、舟、ま、せ、ん、傍、の、日、泳、鳥

卯時也

し、の、う、ら、い、の、ま、ま、の、ま、の、あ、け、士、明
山、人、も、ま、ま、の、ま、ま、し、の、あ、け、の、こ、こ
卯、ま、ま、の、ま、ま、し、の、あ、け、の、ま、ま、可、茶、室

時雨

卯、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、と、捨、よ、一、茶
是、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、素、齋

月、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、士、明
ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、こ、こ
旅、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、三、茶、大
青、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、知、美
下、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、茶、礼
野、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、茶、の、歌、
ひ、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、雪、雄

早梅市考とむらさきの花の月夜
早梅のつぼみとさくらの日のはな
さくら

飛山とて初尚、枝よき 樓 三六
素ちいよくさる花を 樓 菅雅

山茶花

山茶花の紅をいそぐる花系 西條
山茶花の日の紅を山のあふれ 太元
山茶花を折るさくらとて花の伸 幸夫
山茶花の枝を折るさくらとて花の伸 温克

茶の花

茶の花を文竹越り日乃あや。南浦
茶の花をいそぐさくらとて花の伸 橋也
茶の花をいそぐさくらとて花の伸 吉胡

枇杷花

陽のうら 枇杷、さくらとて花の伸 一草
よりさくらとて馬病を枇杷花 三六
枇杷の花をいそぐさくらとて花の伸 兼曾
乃花 移の花
月夜とて枇杷の花をいそぐさくらとて花の伸 大元

あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
様とておのちかたしんあはれおのちかたしん
湖とておのちかたしんあはれおのちかたしん

意

あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
月雲のちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん

意

冬十一

あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん

あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん

あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん
あはれおのちかたしんあはれおのちかたしん

しんがしんがの強さよあふと 士羽
あふまやあふまふい写をまふと 舟度
ふふまの船ふふふあふまふと 二及
木穀に

あふまふあふまふあふまふ 士羽
あふまふあふまふあふまふ 三六
あふまふあふまふあふまふ 成美
あふまふあふまふあふまふ 榎き
あふまふあふまふあふまふ 高嶺
千鳥

棉衣をわが衣の中にもあふまふ 士羽
あふまふあふまふあふまふ 三六
あふまふあふまふあふまふ 昔二
あふまふあふまふあふまふ 杉虫
あふまふあふまふあふまふ 成美
あふまふあふまふあふまふ
あふまふあふまふあふまふ 寒松
あふまふあふまふあふまふ 兼記
あふまふあふまふあふまふ 人艾
あふまふあふまふあふまふ 高嶺

月うねるきこくまを子路のよ
夕陽や海霧を崩すか山路
野あやうとあひまへ霧の上
物ちりりうき路ありあまむ
もよよし園のふせむ路のよ
む山路のたをたこむうろ布
乙二
可敷里
常地
寒松
成蹊
雪下

鶴

あけく山あふらぬまゆふのさり
湖こたきせしりりふつあり
起蹊
未嘗

鶯

冬十五

砂川く山あふらぬまゆふのさり
神楽うらむきこくまを子路のよ
大に九
未嘗

あけく山あふらぬまゆふのさり

あけく山あふらぬまゆふのさり
持はるのたけりあまの
あけく山あふらぬまゆふのさり
はらうらあまのさり
鳥者
世人
大に九
未嘗

あけく山あふらぬまゆふのさり

あけく山あふらぬまゆふのさり
あけく山あふらぬまゆふのさり
乙二
成美

新々如きつゝもいそいで持てお
もてお持てゝ持てかゝるは 十丈
筆の如 鶯子

筆の如 梅はちちちち 茶冬を 松叟
くくくくくくくくくくくく 一茶
九権

行々々々々々々々々々 方の權 實は
いふふふふふふふふふ 素迪
是なるをくくくくくく 未嘗

十一月

冬十六

起々々々々々々々々々 杉長
日ハ出ルルルルルルルル 朱曾

霜月

霜月の如き梅枝 未紀
かかかかかかかか 未時
表の如

起々々々々々々々々々 定春
いふふふふふふふ 芭女
起々々々々々々々々々 春波
起々々々々々々々々々 大に丸

あま

昔のしほのあまのうらみ
小石のうらみ
不にやのうらみ
柳のうらみ
我々のうらみ
いよのうらみ
長崎のうらみ
雨のうらみ

冬十七

子あ 子あ

子あ 子あ
子あ 子あ
梅のうらみ

吹草

吹草
火焼

井

井
あまのうらみ

道のきりのめぬのこしに花をさし
花をさしこころのまじりて人々を待て 五明

花菊

菊のうらみは花のしほりけ
花菊のよもしたきの花のうらみ 集紀

花葛 花葛

花ついでに月夜に春のしほり
花ついでに月夜に春のしほり 冬

霜花

冬下

花をさしこころのまじりて人々を待て
花をさしこころのまじりて人々を待て

花

花をさしこころのまじりて人々を待て
花をさしこころのまじりて人々を待て

花

花をさしこころのまじりて人々を待て
花をさしこころのまじりて人々を待て

稲妻の如き雲の浦の空の雲 士綱
冬 四

鳥よよのけしきおちるるを田に 三浦人
冬 日 経日

あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人
あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人
あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人
あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人

冬 廿一

あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人
あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人

あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人
あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人

あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人
あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人
あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人
あつちの如き雲の浦の空の雲 三浦人

けの上のちのあまののあつ月 万祀
大竹人とのまきの上とあつ月 備二
きりかきし樹をたふしつる月 兼祀
あつ月むすのあつあつあつ 早禱

あつ月
あつ月あつ月あつ月あつ月 三六
あつ月あつ月あつ月あつ月 兼祀

あつ月あつ月あつ月あつ月 万祀
あつ月あつ月あつ月あつ月 兼祀

あつ月あつ月あつ月あつ月 標せ
あつ月あつ月あつ月あつ月 兼祀

あつ月あつ月あつ月あつ月 三六
あつ月あつ月あつ月あつ月 兼祀

あつ月あつ月あつ月あつ月 士嗣
あつ月あつ月あつ月あつ月 三六
あつ月あつ月あつ月あつ月 成美
あつ月あつ月あつ月あつ月 午心

水

休し物はあつちいなる月 兼紀
しきさういふしはしきさういふ 可軒
あつちいなる月 貞隈

休し物はあつちいなる月 可軒
あつちいなる月 兼紀

電車

あつちいなる月 兼紀
あつちいなる月 兼紀
あつちいなる月 兼紀
あつちいなる月 兼紀

冬世

電車 細賣

あつちいなる月 兼紀
あつちいなる月 兼紀
あつちいなる月 兼紀

震

あつちいなる月 兼紀
あつちいなる月 兼紀
あつちいなる月 兼紀
あつちいなる月 兼紀

震

佳の由り一果口は其の管舟 三六
 藤原の松が虫の事か其の形 成美
 一すし物に社を馬かきしり 昌三
 山きりさき程とくし 一物山障
 田九の虫か其の事か其の形 菊真
 く山に虫の事か其の形 馬り良 葵亭
 一すし物に社を馬かきしり 對竹
 一すし物に社を馬かきしり

冬 廿

命めりは接しよふのふし 井六
 多し籠

大黒り行をわがひのた籠 吉嗣
 一すし物に社を馬かきしり 成美
 一すし物に社を馬かきしり 可成里
 一すし物に社を馬かきしり 榮光
 一すし物に社を馬かきしり 月光
 一すし物に社を馬かきしり 士湖
 一すし物に社を馬かきしり 乙二

ふいふやあきまゝのうらたしあか
押やわあのみうはなゆかひまの
ふいふの底うらたしあか
ま曾

竹
桶

画巻うらたしあか桶の書
ねまゝのうらたしあか桶の書
静よ画書あか桶の書
桶の桶のうらたしあか桶の書
流のうらたしあか桶の書
月夜のうらたしあか桶の書
湖外

冬廿五

うらたしあか桶の書
曹雄

うらたしあか桶の書
かまひあか桶の書
うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書

巨
燵

うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書
うらたしあか桶の書

松竹の三井を登る山中に 常は
わらわらあはれし井の縁に 未嘗

帛衣

枯きをそそぎ慈のうへに 星漢
朝日の出るを夜に 未嘗

足袋

松竹禁ふては 足袋のよき 士胡
皮足袋の十とせし 葵亭
足袋を犯しては 未嘗

靴

冬廿八

あつたはる川を中より上 大に丸
靴の糸子病をさし 葵亭
靴の明石の月をさし 葵亭
あつたはる川を中より上 大に丸

靴

あつたはる川を中より上 大に丸
靴の糸子病をさし 葵亭
靴の明石の月をさし 葵亭
あつたはる川を中より上 大に丸
靴の糸子病をさし 葵亭
靴の明石の月をさし 葵亭
あつたはる川を中より上 大に丸

菅貫

菅貫 夜無事
我々の心は 定未
草鞋の先集り 未嘗

細代も

古海... 細代も 牡丹
月代や身... 万和
新代... 雪鳥
あ... 季夏
あ... 完末

塀

塀... 土洞
あ... 冬
塀... 冬

冬

氷魚 鮎

... 未嘗
... 梅價

杜之更 鱧魚

... 冬
... 未嘗
... 冬

生海風

... 土洞

二月

かし経戸芒々々々々々々々々々 石海

奥山よりきく梅の木の十二月 左琴
桂木産る御本家より二月 未嘗

臘八

臘ハ戸瓜えあめりす葉註 昔こ
臘ハハガめ海より於海に 甚而
臘ハハ骨と皮と梅の丸 未嘗

正月

山屋戸西乃於今と本家より 未嘗

冬世一

あつたんよのしききききききき 石海
あつたんよのしききききききき 可磨
あつたんよのしききききききき 未嘗

佛志

あつたんよのしきききききき 成美
あつたんよのしききききききき 未嘗

納言

あつたんよのしききききききき 又安
あつたんよのしききききききき 午心
あつたんよのしききききききき 藝亭

見たり

何れも此の如くは海に雲を引 大野

玉子酒

玉子酒を以て志を結ぶ事 井眉

よきものも持て置けり 酒 十丈

海客

さしよ一本持て置けり 海客 花桂

海客 於此に居るものあり 湖介

まじりて居るものあり 海客 古川

冬卅二

き

葉くひきくはあけぬもの 菊奥

月夜のもたあけぬもの 鷺崎 九上三指

葉は梅の影にまよひて 葉莫

舟底の月を以て心にし 士朗

葉知りて置けり 葉飛

揚りて置けり 葉三

まじりて置けり 幽清

清くしるものあり 三徳人

足掛りて置けり 葉紀

凍る

やうく車まきか人の朝 星濤
ついでと批弁とよまきう那 俗二
地者の著く判るまきん 其樂
むらむらんとてまきんは 季獲
まき目と捨ぬ朝日淡路嶋 乃和
あひりてまきとまきか山の陰 乙二

冬世三

寒入 寒内

松ぼとゆのなを丸寒の入 三巻
あつと起るゆをのまの入 未嘗
孤あつと回入早とまの入
まき目と捨ぬ朝日淡路嶋 乃和
あひりてまきとまきか山の陰 乙二
まき目と捨ぬ朝日淡路嶋 乃和
あひりてまきとまきか山の陰 乙二
まき目と捨ぬ朝日淡路嶋 乃和
あひりてまきとまきか山の陰 乙二

桂堂

月七のしほりのいしほり
いもろくをたつとつとつ
竹の根をぬくものいしほり
只所山はあつしほり

蝶採

よはりのしほりしほり
蝶採やあつしほり
蝶採やあつしほり
蝶採やあつしほり
蝶採やあつしほり
蝶採やあつしほり

冬世

ぬくもを炭団の蝶を養の蝶
蝶のまにあひしほり
しほりのあつしほり
蝶採やあつしほり
蝶採やあつしほり

蝶採

よはりのしほりしほり
蝶採やあつしほり
蝶採やあつしほり
蝶採やあつしほり

蝶採

蝶採
蝶採
蝶採

長あひのしりしはるの解のうたは 辛未
 解揚ちのりかたのあはれ 辛未
 梅りあし持し解しつてあはれ 辛未
 解揚乃指しつてあはれ 辛未
 解花解配し
 解花乃あはれあはれあはれ 辛未
 解花乃あはれあはれあはれ 辛未
 我らつてあはれあはれあはれ 辛未
 直帝

冬廿六

辛未
 由の事何らひもあはれ 辛未
 昔あはれあはれあはれあはれ 辛未
 七つ八つあはれあはれあはれ 辛未
 古鷹
 古鷹あはれあはれあはれあはれ 辛未
 古鷹あはれあはれあはれあはれ 辛未
 古鷹あはれあはれあはれあはれ 辛未
 古鷹あはれあはれあはれあはれ 辛未
 古鷹あはれあはれあはれあはれ 辛未

枕

遠乃ちしるを夢にみよしの枕と

うらやみのあはれしもの枕と

枕とてし寝るにこそは妹と

名をいふはし枕とては藤あり

おのころの花の形もかく

花もさきせよは枕とては柱

床に

床に乃あかしの中にかき

花のちよららにたぬよを前夜

冬世七

追雛 魚ハネ

書りしん追雛の鬼子探まて

花のちよら梅とては魚ハネ

因見

丘の上のあまのまをて笑ひの

園とてはしるを夢にみよしの

年本

おのころのあまのまをて笑ひの

年本とてはしるを夢にみよしの

年取 厄拂

いりむめゆめあふくゆめひん 三六
年しりゆきあふくゆめの子 昔と

鶴
糸

いづきみよのふゆめあふく 七二
かきまのふゆめあふく 見坐

春遊

ねとまふくゆめあふく 糸飛

補 梅えりまふく 昔

ま
帰

おほくくくくくくくく 枝坐

令
共

いづきみよのふゆめあふく 昔

ま
待

かきまのふゆめあふく 糸飛

ねとまふくゆめあふく 糸飛

ま
待

いづきみよのふゆめあふく 昔

かきまのふゆめあふく 昔

難
保
麻
糸
糸
糸

いづきみよのふゆめあふく 昔

かきまのふゆめあふく 昔

り

川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三
川幸内なるのつらぬの在りし 萬三

年暮

さきごとくぬれぬの一日は 土朔
許信し河原はきくし 三光

冬世丸

幸子存大くしぬの山なり 美紀
くぬれぬの一日は 土朔
許信し河原はきくし 三光

除夜 大海日

くぬれぬの一日は 土朔
許信し河原はきくし 三光
くぬれぬの一日は 土朔
許信し河原はきくし 三光

大年

大由も鼻由あつる 禁中不 幽嘆
大由も鼻由あつる 禁中不 幽嘆
大由も鼻由あつる 禁中不 幽嘆
大由も鼻由あつる 禁中不 幽嘆

幸内之春

年おきくしつとまゝなるまの心
 形あるまゝに際すのまの空 椿堂
 一いついしかのまゝの山 兼親
 仲くまのまゝのまのまのま 未嘗
 形あるまゝにまゝのまのま 成美
 由はしむるまのまのまのま 士朗

崑山集をいふ事とのけりよとけ

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 やり系け年 既と和歌と

俳諧歌 ぬ程連歌と母那 冬一

あゝとまゝとては 道をたかぶるは

かげとまゝとては 事よとまゝとて

えいけい 志い〜 志い〜 志い〜 代に

たゞしは道よこしきむとく
片葉くよ出まらうておれくおれく
玉手振めささしよ今に其後葉
ゆく世の海より書て入るらん
六とほもうつとゆ葉をあらへ今
は集をまらう今世の手振字

まらう物く今世のと葉人
たあら見せて今世の手振字
まらうまらうまらうまらう

文政三年八月

石津亮登

俳諧流行七部集

新撰分 卷目 鮎倉 炭瓢
氣厚 長月集 月見の記
小七一合二冊 貞外 弁法柄 附録 三十六人發句集
まゝ三十六名 家持發句を附録 ありあけ流物と云ふ字あり

仙遊名所發句集

中本 全部 四冊
此書ハ中本條 易と云ふはけりて 社社仙岡山川味と浦と名所古名物
名産又いふもまてくくく 漢と出て守武貞法が分岐其角炭
木は先哲よりをまてくくく 漢と出て守武貞法が分岐其角炭
つひに先哲よりをまてくくく 漢と出て守武貞法が分岐其角炭

發句類林十二月抄

寸珍本 全 七冊
季ト各々の名を發句に題する人の名を例のまゝあつて十一月部
終りてのまゝに終題をいへば 漢と出て守武貞法が分岐其角炭
月にはまゝに終題をいへば 漢と出て守武貞法が分岐其角炭

芭蕉翁附合彙評注篤志著 小本 全部 二冊
此書中本條 易と云ふはけりて 社社仙岡山川味と浦と名所古名物
名産又いふもまてくくく 漢と出て守武貞法が分岐其角炭
木は先哲よりをまてくくく 漢と出て守武貞法が分岐其角炭

浪速書舖

田中宋榮堂藏板目錄

大坂 齊藤通安堂 秋田 屋太右衛門

法橋寺島良安編 和漢三才圖會 全冊

春秋列國圖 一校

唐明詩學聯錦 袖珍 全

同續聯錦 全 同續二聯錦 全

同掌中聯錦 同掌中詩聯

唐宋詩語類苑 中本 四冊

四季十二月 合千餘人 華華木鳥虫等ノ
物等ノ異名發字詩語 漢上上下下二限ニ見
レテ詩格正編 平仄之四式 五七絶句律格ノ
等ヲ注シ初學ノ詩餘ニ便リヌ

内閣秘傳字符 全

其昌勝王閣 行書 八字 二冊

同 征述帖 用字 全一帖

同 千字文行書 中字 全一帖

義之十七帖 全一帖

隸 辯 大字 二冊

唐本隸刻ニシテ卷首ニ畫引ヲ附シ隸
九千余頁ヲ書ス隸字大全ナリ

詩法掌韻 中本 五冊

裝劍寄賞 七冊

五	雜俎	八冊
楚	辭證	四冊
古文	前集	一冊
古文	後集	二冊
管子	全書	十三冊
同	甫正	二冊
同	箋注	二冊
四	書	十冊
四	書	十冊
同	片力寸付小本 三冊同卷憶形	四冊
五	經白文	六冊
同	小本	六冊

五	經	道本五 十一冊
同	新刻	十一冊
同	關齋五	十冊
韋	注國語	六冊
同	新板	十葉卷五 六冊
同	增注	家注 八冊
同	明道本	六冊
同	國語定本	六冊
同	畧說	四冊
同	律呂解	二冊
同	解刪甫	一冊

春秋	左氏傳	安永板 十五冊
同	<small>寬政新板</small>	十五冊
同	國字解	十冊
同	國字辨	尾州 加藤著 十五冊
技本	左氏傳	秦昂 十五冊
左	傳屬事	十五冊
同	秦疏	二十冊
同	助字法	三冊
同	考	小本 三冊
同	杜解甫正	三冊

左	傳人名錄	全
同	直音	全
同	字引	全
同	杜林合註	
同	狐白	
同	注疏	二十冊
左	國枝詞	二冊
左	傳麟	全五冊
同	柳翰文	五十冊
翰	文起	全十冊

文林節用筆海全 大本全 一冊

世俗通函の書札... 諸品唐の書久... 正三... 日... 去...

同 小本 備中 備一 冊

書札良材 全

諸通文鑑 全

同 奉書指手本 二冊

早見彙文 一冊

此函... 早見... 下... 一... 二...

四家鳥 但馬先生著 十二冊

俳諧問答 五冊

同 芭蕉談 二冊

俳諧四部録 二冊

蕉門一夜口授 一冊

芭蕉翁廿五ヶ条解 一冊

宗因俳諧發句集 一冊

俳諧世説 三冊

其村宗近輯 小本 一冊

玉藻集 一冊

商人日用書狀箱 全

常用手習狀 全

庭訓性来 全

玉置庭訓 全

和漢朗詠集 二冊

同 二冊

大宝朗詠頭書 二冊

增補大宝和漢朗詠集 二冊
大宝朗詠集 二冊
...

一夜四歌 仙 二冊

俳諧十六篇 全

同 一技起請 全

同 六家集 六冊

樗良文集 全同句集 全

萬物故事要畧 大本 合卷四冊

本朝神代ヨリ漢土代々帝王士臣ノ事實
ヲ論シ年中行更ノ来由其外四民世用ノ業
事俗通ノ説ニハニ廿ニ知ガタキ事ノ故実ヲ注
釈シ常用ニモ無ク文字ヲ千余字集出シ
事物ノ故事ヲ説シタレバ博字ノ君子ヲ
トモ座右ニシテ耻ザルノ書ニテ而モ国字ヲ
以テ注シタレバ童蒙ニモ讀安キ故事大
全ナリ

芭蕉袖草紙

三冊

芭蕉一門の句と五律の著述を流石のうらやまといふ。芭蕉の句と五律の著述を流石のうらやまといふ。芭蕉の句と五律の著述を流石のうらやまといふ。

俳諧道の便

小本 二冊

千五百名ほどの著述を、もて口と筆とを、いふ。千五百名ほどの著述を、もて口と筆とを、いふ。千五百名ほどの著述を、もて口と筆とを、いふ。

古今集をなむ

三冊

古今和歌集の注釈「袖草紙」の、いふ。古今和歌集の注釈「袖草紙」の、いふ。古今和歌集の注釈「袖草紙」の、いふ。

冠辞考

真淵大入著 十冊

和歌の格調と、いふ。和歌の格調と、いふ。和歌の格調と、いふ。

冠辞考續貂

林成入著

七冊

冠辞考より、いふ。冠辞考より、いふ。冠辞考より、いふ。

技本古今集

蓮月師教

二冊

此書本々の、いふ。此書本々の、いふ。此書本々の、いふ。

和歌新美竹集

初書

二冊

同 二聖集

二冊

万葉集中、いふ。万葉集中、いふ。万葉集中、いふ。

續歌林良材

二冊

新歌林良材

二冊

う津不物語

三十冊

紫文消息

一冊

源氏物語の、いふ。源氏物語の、いふ。源氏物語の、いふ。

孔叢子

三冊

同 増補

家注 五冊

増補長曆頭書

一冊

新童子往來万宝大全

大板

一冊

庭訓往來古歌、いふ。庭訓往來古歌、いふ。庭訓往來古歌、いふ。

新童子往來

無カナ

一冊

同文政新板平か府

一冊

森羅万象要字海

大本

一冊

玉海節用字林藏

同

一冊

大會節用文字選

同

一冊

右三冊とも、いふ。右三冊とも、いふ。右三冊とも、いふ。

萬會節用白家選

大板

一冊

大冊の節用、いふ。大冊の節用、いふ。大冊の節用、いふ。

大福節用萬宝藏

日め

一冊

外科衆方規矩

一冊

奉道醫療追道

一冊

外科調宝記

一冊

世人種物、いふ。世人種物、いふ。世人種物、いふ。

萬葉集類聚抄

二冊

百葉集の中三十一卷の歌をとりてそのうち一巻は歌と古歌とをとりて一人の歌もよみたる

歌道人物志

七冊

古今の歌道に於ける人物の志を記す

古今の歌道に於ける人物の志を記す

百人一首名所圖繪

三冊

田山然儀丈人の考百人の至國置符とて歌の所并の書と圖とを記し一歌一図といふ

百人一首基象抄

二冊

女早見案文

一冊

古今の歌道の状文の考の正之書

湖月百人首錦花選

全一冊

春首と高野山の園とを女流の歌を採りて

紅梅頁一首小倉錦

一冊

梅が枝百人一首

一冊

雙葉百人一首

一冊

挂百人一首玉兔

一冊

女學則探鑑

一冊

此書は大学の教へて女子一代の身なりを記す

活初心法

一冊

同新板

二冊 同小本

一冊

北山醫案

三冊

灸法口快

三冊

脚氣方論

一冊 同提要

二冊

脚氣方論

三冊

凡かゝる脚氣の症見キハルテ大ニナリト云フ

華陀中藏經

一冊

妙藥不未人

一冊

此書は諸國の名人の事

女友會百花選

全一冊

昔の歌道の名人の事

古今百人一首錦織

一冊

浪華百人一首

一冊

類葉百人一首教文庫

一冊

花陽百人一首

一冊

女今川姫小松

一冊

此書は大学の教へて女子一代の身なりを記す

江戸藤川在堂宗匠撰
近世發句集

全四冊

著時存在の諸名家及び和の句と四季の句
秋野の句と冬野の句と春の句と夏の句の見合
句の句と文政口問の句の句集

夜半翁無村文集

全二冊

此集は歳且の流檜笠追慕實録並録
佐野の化ふる楚翁の傳楚翁流の化り芭蕉
童再長の化り楚翁の化りたる故拾遺
ひろく世に知らる

芭蕉翁發句諸抄大成

五冊

翁の句と和の句とを並べて選集するは、
下より上へ向るの修習の初の人書けりて修
るは、下より上の修習とて、作らるる句と
句集と、此名家の神況と奉るる句と、芭蕉翁の
歌と和の句とを並べた上上の書るる句と和の句と
を別く有玉の大成なり

譯文筌蹄

初編 六冊

此書物八祖米先生ノ口授ニテ詩文其外
學ニ取扱フ処ノ虚字并虚字同訓ニテ義
同シカラサルヲ門人ニ口授カラ傳エ玉ヒレ形
ノ字義ヲ詳ニ明ニシタル各ナリ

後編

三冊

同 字引

一冊

文 語 解

五冊

大段禪師ノ著述ニテ虚字実字助語字等ノ同訓
異義ヲ注解シ私ク考義ヲ知ル各ナリ

譯文須知

五冊

虚字助語ノ同訓異義ヲ恒ノ書カク出ル云テ詳ニ
考テ同訓ノ字ヲイハルニテ抄出テ字義ヲ求ルニ安カラ
ズ右ノ各々上清物ノ考者各々虚字ニテ大ニ益アリ

虚字解

二冊

同後編

二冊

